

「トビタテ！ 留学JAPAN」 日本代表プログラム高校生コース 壮行会開催レポート

「トビタテ！ 留学JAPAN日本代表プログラム」は、グローバル化に対応する人材育成を強化するため、国が企業や団体と連携し、海外留学を支援する制度だ。従来、大学生を支援対象としていたが、2015年度に高校生を支援対象とする「高校生コース」を新設した（詳しくは本誌2014年12月号を参照）。「高校生コース」第1期生の留学を目前に控えた2015年6月、その壮行会が文部科学省で行われた。当日の様子をレポートする。



生徒は志を語り合い 留学への意欲を高める

壮行会の会場には、全国の高校から選ばれた「高校生コース」第1期生297人（*）が集まった。

第1部では、まず、下村博文文部科学大臣と、支援企業・団体の代表である北山禎介^{ていすけ}三井住友銀行取締役会長が、海外留学の意義を強調し、激励の言葉を贈った。次に、第1期生を代表して2人の高校生が登壇し、留学への決意と将来の抱負を力強く語った。第2部の懇親会では、互いの志を熱く語り合う第1期生の姿が多く見られた。そこでよく聞かれた

激励の言葉

**国際社会を生きる素養は
留学で身に付けられる**



文部科学大臣
下村博文氏

◎グローバル化や情報化が進んだ今、世界は瞬く間に大きく変化するので、今までにない課題に直面することも増えるでしょう。そこで、今後の国際社会を生き抜くためには、主体的な課題解決力、より良い方法を考える創造性、他者との共生精神の3つが最も重要に

決意の言葉

**自己実現のために
英語力を磨きたい**



徳島県立徳島北高校2年生
生田陽菜さん

◎私は、ニューヨークの姉妹校に3か月間留学します。将来は医師として発展途上国の医療に貢献したいと考えているので、留学したら、英語力を高め、異文化への理解を深めることに力を入れるつもりです。また、食生活と健康との関係に興味があるので、

教師・保護者インタビュー

**自分の進路として
海外を考えられる生徒を**



大阪府・私立初芝立命館中学・高校校長
高橋克夫先生

◎本校からは、2年生1人がカナダに留学します。具体的な進路を決めるまではまだ時間があるので、生徒には、海外での出会いや感動などを通して、「将来こういうことがしたい」という方向性をつかんでほしいと思います。本制度は規模が大きく、事前・事後指導も充実しているため、参加者は

*第1期生の総数は303人



グループワークでは、留学の目的などを語り合いながら、それぞれ自分が留学先で本当に取り組みたいことは何かを掘り下げて考えていった。

のは、自分の学びを他者に役立てたいという声だ。例えば、スキーマの技術を磨くために米国オレゴン州に留学する公立高校2年生は「先輩にアドバイスできるように、コーチング技術も見習いたい」と話していた。懇親会後は、留学の目的などを話し合うグループワークも行われた。ベトナムの大学で振動発電について学ぶという高校生、オーストラリアの牧場にファームステイする高校生、ガーナの孤児院で教育支援のボランティアをする高校生など、留学の目的は様々。第1期生は、壮行会を通して多様な志に触れ、留学に対する意欲を更に高めたに違いない。

なると、私は考えています。いずれの素養も、海外において価値観や文化的背景が異なる多様な人々と交流し、戸惑ったり悩んだりすることで、身に付けることが出来るはずで。海外留学は、皆さんの人生の幅を広げる好機です。精いっぱい頑張ってください。

果敢に挑戦することで 幅広い教養が得られる

三井住友銀行取締役会長
(中央教育審議会会長)

北山楨介氏



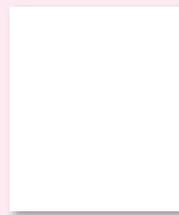
◎日本は明治以来、海外から導入した技術を改善、応用することで、発展してきました。しかし今後は、新たな価値を生み出す、イノベータータイプな力が今まで以上に求められていくでしょう。既成概念にとらわれない柔軟な発想は、幅広い教養があつてこそ可能です。「百聞は一見に如かず」と言いますから、実体験を通して知識を身に付けることを大切にしてください。海外の留学先では、日本では出来ないようなことを多く経験できます。失敗を恐れず、何事にも果敢に挑戦し、多彩な経験を積んでください。応援しています。

ニュージーランドの食料事情を学ぶことも、留学の目的の1つです。留学先の高校では、農業実習などの授業を積極的に履修する予定ですし、農家にホームステイをするので、農作業の様子を間近でじっくり観察できると期待しています。

自分の演奏で 人々に幸福を届けたい

東京都・私立桐朋女子高校音楽科
(男女共学) 3年生

島方 瞭さん



◎私は、尊敬するバイオリニストの指導を受けるために、オーストリアの音楽アカデミーに留学します。そのバイオリニストとは、2014年12月に神奈川県で行われたコンサートで出会いました。聴衆として演奏に魅了され、「この人の下で学びたい!」と強く思いました。今、その夢が実現しようとしていることに、感動しています。本制度に応募するよう勧めてくれた祖母に感謝したいと思います。将来はヨーロッパで更に学び、自分の演奏で世界中の人々を幸福に出来るようなバイオリニストになりたいと考えています。

留学先での体験を進路選択に生かしやすいはず。将来の志望をしっかりと持ち、それを実現するために海外の大学に進学しようとする生徒が1人でも増えるよう、本校では今後も本制度について積極的に校内で告知し、参加を呼び掛けていきたいと考えています。

憧れの職業への 適性を判断してほしい

奈良県立奈良高校2年生の保護者
落合浩一郎さん



◎子どもは考古学者に憧れ、インカ帝国など世界的に有名な史跡のあるペルーに留学したいと、自分で本制度に応募しました。留学は、海外と日本との違いやそれぞれの長所にたくさん気づき、視野を広げる良い機会だと思います。また、現地で発掘調査なども行うようなので、考古学者という職業が自分に向いているかどうかを判断するきっかけにもなるはずです。子どもが考古学者になることに、今の私は、正直、必ずしも賛成はしていませんが、もし、帰国した子どもが将来就きたい職業として本気で志す意思を示すことが出来れば、一人前として認め、応援していきたいと考えています。